

Book Review 35-7 仕事 #ミスター・チームリーダー

『#ミスター・チームリーダー』（石田夏穂著）を読んでみた。著者は1991年埼玉県生まれ。東京工業大学工学部卒。本書は第166回芥川賞候補作にも選ばれた。著者もボディ・ビル・ジム通いをしている。

本作は減量のために自分を律している主人公Gが、体重の微々たる増減に一喜一憂する。レンタル用品を扱う職場で、働きづらさ、生きづらさもある。Gは自分ではどうにもコントロールできないことは多いが、「自分の体型は、自分の意志で、どうにでもなる」と思っている。それができない周囲の人間を軽蔑している。

前作『#我が友、スミス』同様、筋トレにはまり、ボディビル大会出場を目指す男性Gが主人公。ボディビル大会出場のために日夜減量に励む。筋肉を増やして、脂肪を減らし、かつ目標の体重まで絞り込まなければならないのだ。

一方、勤務先で入社9年目に係長に抜擢されたGは、ボディビルの大会まで残り二か月をきったというのに、思い通りに体重が減らず焦っていた。このままでは目標体重に届かない。そんなある日、社内の人材の無駄に切り込み、組織の代謝を上げる（食べてばかりで働かない体脂肪過多の者を切り捨てる）と大会に向けて停滞中だった減量も進むことに気づいた。終に大会当日、チームの脂肪の除去に驀進しすぎて、メンバーが全ていなくなってしまうことを上司からの電話で知る。そして皮肉なことにGは体重が規定範囲内以下という理由で失格となるのだった。

仕事を遂行する上で、効率を重んじて、非効率なことや人物は切り捨てればいいのか。本書はそんな風潮への逆説提示ではないのだろうか。